

## 令和5年度(2023年度)セタシジミ放流用稚貝の育成と北湖漁場への放流

佐野聡哉・井戸本純一・孝橋賢一

### 1. 目的

北湖漁場のセタシジミは近年生息密度が低下し、漁獲の低迷が続いている。セタシジミ資源の増殖を図るため、稚貝を育成して北湖の漁場に放流した。

### 2. 方法

琵琶湖北湖で採捕した親貝を西の湖で肥育し、水産試験場内の水槽で産卵させてD型仔貝を生産した。D型仔貝をふ化直後からエアリフト式のアップウェリング(UW)法で飼育した。餌として、水産試験場で培養したクロレラをFRP水槽に毎日注入した。10日齢頃からは市販のクロレラを少量加えた。平均殻長が300 $\mu\text{m}$ を超えるまで育成し、琵琶湖北湖の漁場に放流した。

### 3. 結果

稚貝育成および放流の結果を表1に示す(表1には参考までに南湖に放流した稚貝の育成結果についても記す)。飼育期間中の生残率は、アップウェリング槽に5月に收容したロットでは高かったが、6月に收容したロットでは一転して低くなった。例年、6月以降にアップウェリング槽に收容したロットは、生残率が低くなるため、その原因の解明が求められる。

沖島南漁場には、令和5年6月8日に1320万個の稚貝(平均殻長315 $\mu\text{m}$ )を放流した。

表2には、参考に過年度からの北湖漁場へのセタシジミ放流実績を示した。

表2 北湖漁場へのセタシジミ種苗放流実績

年度	D型仔貝		稚貝	
	沖島南	松原	沖島南	松原
H30	6,260万	2,600万		
H31				
R2			1,262万	
R3			1,288万	168万
R4			1,455万	815万
R5			1,320万	

表1 セタシジミ稚貝育成および放流の結果

アップウェリング槽 收容時			放流時(取上時)			飼育水温 最高/最低 (°C)	飼育 日数	生残率 (%)	日間 成長量 ( $\mu\text{m}/\text{日}$ )	放流漁場
月日	個体数 (千個体)	密度 (千個体/ 容器)	月日	個体数 (千個体)	平均殻長					
5月8日	1,507	377	5月26日	863	372	28/18	19	57	10.6	南湖
5月15日	12,840	642	5月30日	8,249	323	28/18	14	64	10.9	南湖
5月23日	16,947	706	6月8日	13,200	315	28/21	17	78	8.5	沖島南
6月5日	21,400	892	6月22日	973	314	28/20	18	5	8.0	放流せず
6月13日	18,000	750	6月27日	3,490	314	28/20	15	19	9.6	南湖

日間成長量：飼育中の殻長の増加／飼育日数